令和４年度　いじめをなくそう子ども会議
～友達を理解・自分を理解～

いじめは、子どもの生命や心身の健全な成長及び人格の形成に影響を及ぼす重大な問題です。その問題を克服するには、いじめを未然に防止することが重要です。
そのためには、自分の存在と他者の存在を認め、互いの人格を尊重し合えるようにすることや、全ての児童・生徒が学校生活に安心でき、自分を大切にすることを感じられるようにするなど、いじめを生まない土壌作りが必要です。
各学校では「特別の教科　道徳」の授業で、『相手の個性や自分自身の個性を大切にするためにできること』について学習をし、各校の代表者が授業で学んだことや、自分の個性が認められてうれしかった経験等について交流しました。

今年度のいじめをなくそう子ども会議はオンライン会議で行いました。小学校は５校ずつ２つのグループに、中学校６校を１グループに分け、話合いを行いました。最初に各校の代表者が学習を通して学んだことを発表し、その次に、自分のこれまでの体験を振り返り、他者に認められてうれしかった経験をもとに、そのときの気持ちや友達を理解するためにできることを話し合いました。話合いを通して、一人一人が自分の経験をもとに、自分の個性と同じように友達の個性も認めることが大切だということを実感し、有意義な会議となりました。
各校の取組や話合いの内容について一部を紹介いたします。

いじめをなくそう子ども会議での話合い

『これまでの生活の中で、自分の内面や性格について人から言われてうれしかった経験や友達の内面について「いいな」と感じたことはありますか』

- 自分は人からよく「細かい」と言われるけれど、ある友達は「丁寧」と言ってくれた。これまで短所だと思っていたことを、長所と見てくれる人がいて、とてもうれしい気持ちになり、自分に自信がもてるようになった。
- 習い事のサッカーを頑張っていることを認められたことがうれしかった。それ以上にそういう風に見てくれる友達がいたことがうれしいと感じた。
- 自分は普段から真面目なタイプだと思っており、友達に認められたことで、さらに真剣に取り組もうと思えた。

授業を通し学んだこと、各学校の取組の発表

互いの良いところを見つけるために「良いところ大発見掲示板」という取組を行っています。また「あいさつ運動」で学校全体を明るくしようとしています。

道徳の学習を通して、自分が良いと思ったことが必ずしも良いと限らないと思った。相手の気持ちや置かれている状況も理解して友達と接していきたい。

「相手を否定しない、自分との違いを理解する」言葉にするのは簡単でも、行動に移すのは難しいと思う。まずは相手を受入れるところから始めることが大切だと感じた。

誰にも得意なことと不得意なことがある。不得意な部分に目を向けて、攻めるのではなく、それも相手の個性だということを認めることが大切だと思った。

会議後、学校では

当日の様子を校内テレビで放送するなどし、全校の子どもに会議で話し合われたことを伝えました。

いじめの未然防止に向けた各学校の取組

- 「ふれあい月間」の実施
- 軽微なものでもいじめと認知
- 学級集団アセスメントの実施※
- いじめに関する授業
- いじめについて考える日の設定

子どもが安心して生活できる学級・学校づくり

〈当日の会場の様子〉

※学級集団アセスメントの実施　児童・生徒の学校生活の満足度や意欲、学級の状況を測定する質問紙調査

ICT を活用した学習

あきる野市立小・中学校に一人一台タブレットが導入されて２年目となりました。
小学校低学年の学級においても、子どもたちは、操作に慣れ、学習用具として使っています。

小学校低学年は、指やタッチペンで画面に文字を書いて入力することが多いですね。

小学校低学年の国語の授業では、言葉をつないで詩をつくりました。
詩や作文を書こうとしても、単語は浮かんでもうまくつなげられず、書き直すことを手間に感じるなど、苦手意識をもつ子どももいます。しかし、タブレットを使えば、文章の語順を簡単に直せるので、書き直しの手間も感じずに、楽しく文章を書くことができていました。
各自で考えた言葉をタブレット上のカードに書いて保存します。何枚ものカードを保存した後に、言葉をつないでいき、語順を入れ替えて詩にしました。別の言葉のカードを作って加えることで、より良い文章にしていく活動が見られました。また、書いたものを共有することを望む子どもの声があがり、互いに見合う姿も見られました。
子どもたちは、「気付いたら文章ができて楽しい」「直せるのがいい」「もっと文を書きたい」とタブレットを活用した文章づくりを楽しんでいました。
教員は、「友達の文章を集約ソフトの全員の提出フォルダから見ることで、様々な意見を見合えてよい」と話していました。
副校長は、子どもたちが積極的に休み時間にも活用しており、学校全体で活用が定着してきていることを実感しています。

中学校の理科の授業では、グループで実験を行い、金属名を考える授業が行われていました。
授業では多くの場面でタブレットを活用しています。この授業では、

①実験過程を写真に撮り、実験結果を入力する
②根拠となる情報をインターネットで検索し、実験結果から考えたことを入力する
③他のグループと考察を共有する
などの場面がありました。
生徒はタブレット活用について、「検索サイトで金属を判断する基礎知識を見つけたことで結果の分析に自信がもてた」「写真を送って簡単に結果の報告ができた」と話していました。また、教員は、「動画や写真を使うことで、説明がしやすくなった」「机を回ってノートを見たり、後でノートを集めなくても、その場で生徒が考えていることが分かるようになった」と話していました。
副校長は、「写真の活用や調べたことを、タブレットに送信するのは簡単で、情報を残すこともできます。情報をグループで共有することで、簡単に考えの共有ができるようになった」とタブレット活用の効果を捉えていました。

一部の学校では、児童・生徒が理科のデジタル教科書をタブレットで利用しています。

あきる野市立小・中学校では、タブレットの持ち帰りが試行的に始まりました。学校と家庭で連携して、持ち帰りのルールやSNSのルールを指導し、一人一人が自覚をもって安全に利用できるようにしてまいります。